

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当たり前の普通の暮らしや生活の継続を理念に掲げ、地域の中で暮らしていくことが、その大切な要素であることを運営者、管理者、職員全員が理解している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>常に理念を意識して利用者との関わりを大切にしています。その人らしい生活を最期まで送って頂ける様お世話している。</p>	
3	<p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族、訪問者、見学者には、ホームの理念と役割について伝えていきます。地域に対しては道路清掃やお祭りなどの行事に参加したり、ホーム便りを回覧して頂きホームの様子を伝えていきます。</p>	<p>○ 運営推進会議などで一層の理解を得られるよう努力していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩やゴミ出しの時など、気軽に挨拶を交わしていますが、立ち寄って頂く機会は少ないです。</p>	<p>○ 気軽に立ち寄ってお茶やお喋りが出来るよう取り組んでいきたいと思います。(思案中)</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>隣組合いに参加し、組合の活動に参加しています。(道路清掃やお祭りなど)</p>	<p>○ 地域のボランティア活動に積極的に参加して行きたいと思っています(どんな活動があるか調査中)。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族介護教室を開き、地域の方に認知症の理解と接し方の勉強会を行なっています。地域の方からの認知症に関しての相談をいつでも受けられる様伝えていきます。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	外部評価の結果は、全職員で話し合い改善に向けて努力しています。動物を飼っているため臭い、換気の必要があると指摘を受け、具体的に改善に取り組んだ。	指摘を受けた改善点を重点的に行った結果、改善傾向になっています。(臭いが気にならなく無くなった・・・職員以外からの意見です)
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	定期的開催している。会議での意見を参考に・・・地域活動への参加を始めた。→地域ボランティアとして・道路の空き缶拾いを始める。	○ 毎週日曜日ホーム周辺の道路のゴミと空き缶拾いを行っています。他に、地域の方との繋がりが持ててお手伝いが出来る様意見を聞かせて頂きたいと思っています。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の担当者や在宅介護支援センターの職員等と行き来する機会を日常的に作っている。さまざまな支援をお互いに行っている。	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	運営者が対応する為他の職員はどんな風に支援するのか理解不足のところがあると思います。	○ ホームの介護教室のテーマにしたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	高齢者虐待防止法については、特に学ぶ機会はない。しかし、虐待についてのアンケート調査の協力や資料の掲示をして、職員は常にミーティングなどで理解を深め意識を持っています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>主に運営者が行なっていますがホームの理念、重度化した時や看取りについての対応それによる協力医療機関との連携についての説明をしています。</p>	○	管理者が契約に携わるようにする。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>利用者の様子や態度からどんな思いでいるのか、察する努力をし、利用者本位のケアを心掛けています。会議やミーティングで出た意見は日々のケアに活かしています。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>家族の来訪時には日常の暮らしの様子や健康状態を伝えていきます。(体調不良の時は連絡をし状態説明をします。堀マラソンの練習の様子を伝えます。)</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>家族の方が訪問した時は、何でも言ってもらえるよう雰囲気作りをしています。</p>	○	家族会がないので家族同士の交流が持てる機会を考えて行きたいと思います。家族からの意見は速やかに話し合い実践していこうと思います。 家族会を設置
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>運営会議を月1回行ない職員の意見や要望を聞いています。日々、コミュニケーションを図り意見交換が出来るよう心掛けています。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>利用者本位のケアを行なうため、必要に応じてその都度、柔軟に職員配置をしています。(外出希望が出たときなど・・・)</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>極力職員の異動を避け、馴染みの職員によるケアが安心でき重要だと考えています。新しい職員が入ったとき利用者にきちんと紹介しスムーズに関わって行けるよう努めています。</p>	○	利用者への気遣いは全職員で関わっています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<input type="radio"/> 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内やプリントを掲示して、出来るだけ多くの職員が受講できるよう働きかけています。 ホームでは職員の要望を取り入れ定期的に勉強会を行なっています。	○	外部の研修の受講機会を増やしていきたいです。
20	<input type="radio"/> 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内・ブロック別に分かれてレベルアップ研修に参加しています。その他の研修への参加も行っています。		
21	<input type="radio"/> 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常職員のストレスや悩みを把握するようコミュニケーションをとっていますが、職員が一息ついたり、気分転換が出来る場所がありません。職員の慰安に関しても少ないです。	○	慰安は、年に2～3回は行ないたいと思います。
22	<input type="radio"/> 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己評価を行なっています。(面接も含む)		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<input type="radio"/> 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	主に運営者が行なっている為、職員は関わっていません。	○	管理者が契約に携わるようにする。
24	<input type="radio"/> 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	主に運営者が行なっている為、介護職員が携わる場面はありません。	○	管理者、担当職員が相談に応ずるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主に、運営者が携っています。 ホームのパンフレットの提示をして説明をします。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの情報を参考にして、安心して過ごして頂ける様関わっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	外出した時など車椅子を押して頂いたり、助け合う機会があります。 地域活動の参加→道路の空き缶拾いを支援しています。 駅伝経験のある方→地域・堀マラソン出場し満足感や達成感を職員も共感しました。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	恒例の年1回の一泊旅行を実施しています。 堀マラソン出場に関して・・・練習計画をたて全職員が携わり本番に向けて頑張りました。家族の応援も力になりました。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	恒例の一泊旅行や納涼祭などの催し事に、ご家族の参加を呼びかけ楽しい時間を一緒に過ごして頂けるよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他施設に入所している妻との面会を定期的に行なっています。 お盆・彼岸など、墓参りに行っています。 友人との連絡をとり、友人関係の維持に努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の表情や感情の変化を常に注意深く見守りながら、安らげる場面やみんな楽しく過ごせる場面づくりするなど、利用者の関係がうまくいく様支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	以前の利用者の家族が経営しているぶどう園を時期が来ると利用しています。清拭用タオルを寄付していただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式でケアプランを立てています。意思疎通が困難な方は家族から情報を得るようにしています。また、日々の関わりの中で言葉や表情などから真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式でケアプランを立てています。自宅訪問時に本人や家族または知人などから聞き取るようにしています。また、折に触れ情報を得るように努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式でケアプランを立てています。情報を元に慣れ親しんだ生活を続けられるよう努めています。出来ることの大切さや充実感を持ってもらえるよう心掛けています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全体で、カンファレンス・モニタリングを行ない、介護計画を作成しています。	○	家族が参加出来る会議にしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した時などは、期間が来ていなくても検討・見直しをし、介護計画を作成しています。月1回モニタリングを実施しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子や職員の気づきを個々の記録簿に記載し、職員間で情報を共有して介護計画の見直しをしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態に応じて、個々に合った通院をしています。 (皮膚科・耳鼻科の受診) 多機能性・・・ディサービス・ショートステイの利用が出来ます。 (1日3名限定)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	SOSネットワークを広めています。 グループホームの回報を地域に回覧してもらっています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	日常の変化を目的として、他のディサービスを利用しています。 他の福祉関係とのサービス調整会議を行なっています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	活動がまだ不十分だと思われます。地域包括支援センターにその余力がない。	○	市に職員の増員も含めて、協力を呼びかけていく
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医師による訪問診療を受けられています。定期的に通院をしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の人の医療に理解があり、利用者の健康状態を常に見てくれる医師がいます。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置するとともに、24時間対応の訪問看護を確保しています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関を備えています。 入院によるレベル低下を防ぐために主治医や看護師と話し合いを多く持ちホームの職員が対応できるレベルに早くなるよう働きかけます。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・医師・職員と話し合い、終末期に対する対応方針を決め、見取り同意書を作成し、ターミナル期の介護計画を立て、ケアにあたります。 家族の気持ちの変化や思いにも気をつけます。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人と家族の希望や思いを尊重し安心して終末期を過ごして頂ける様取り組んでいます。 ターミナル期に於いては家族・医師・職員が随時確認しながら連携をとっています。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移られた方はいませんが、これまでの生活支援の内容や注意点、身体面などの情報提供はして行きたいと思えます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの折に利用者の誇りを損なわないような対応や親しみと尊敬を持った言葉使いをするよう指導しています。個人情報を利用する場合、許可・同意を得ています。(同意書)	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の経験や希望により『堀マラソン』への出場を決め、職員と共に日々練習を重ねて見事完走しました。 外出・買い物への声掛けや働きかけを行なっています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の様子を見て、外出(ドライブ)・散歩や唄など、一人一人に合った対応をしています。車好きな方が、車に乗りたい言った時は、ドライブに誘います。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族と連絡をとり、本人の馴染みのある美容院で、カットや毛染めをしています。(職員が送迎をしている)	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と同じ物を一緒に食べています。気分によって時々、昔話をしながら下準備(野菜の皮剥きなど...)を手伝って頂いています。外食を楽しんでいます。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙は、他の利用者の迷惑にならない様吸える場所があります。 飲酒は、日常的ではありませんが、外出された時、ビールを飲まれます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人のサイン(様子)を把握し、さりげなくトイレ案内をしています。 トイレ案内することで、トイレの排泄を促しています。(時間の把握)		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂好きな方や血行改善の為に、毎日入浴される方がいます。 時間は日中、夕食前～就寝前に入れます。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中は活動(散歩や買い物など)を促し、体のリズムを崩さないよう支援しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外仕事をされていた方には、草むしりや水やり花の植え付けなど職員と一緒にいきます・・・生き生きとした表情が見られます。 週に何度かのゴミ出しを手順よくやって頂いています・・・役割という意識が見られます。 動物好きな方は毎日猫の世話をしています。		道路の美化に協力・・・毎週日曜日に行なっています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族納得の上、お金所持出来る方は、手元に持ってもらっています。外出して購入したいものがあつた時は、さりげなく支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日、本人の希望に応じて外出・ドライブ・買い物を行なっています。 外に出ると表情が良くなったり、笑顔が多く、会話が多くなったりと良い変化が見られます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	好きだった競艇場へ行き、楽しんで来ています。 妻との思い出の場所への外出の援助をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら、やり取りすることが難しいです。	○	自筆による年賀状を作り出したいと思っています。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は、決まっていないので、いつでも気軽に都合のいい時間帯に来て頂けます。 ご家族で過ごされるスペースを速やかに用意しています。 (ソファーであったり、居室であったり・・・) 職員はいつも明るく挨拶します。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんなことがあっても、身体拘束や行動を妨げる様なことはしません。危険回避を必要とする時は、職員で話し合いながらケアをしています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不安や閉塞感を与えない様に鍵を掛けないのが、当たり前になっています。 外に出る様子が見られたら、見守り、声を掛けたりして危険のない様対応しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に見守りやすいところにいます。(昼夜ともに・・・) フロアには職員が必ずいること。常に、席を外す時は、職員同士声を掛け合っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	喫煙される方のタバコ・ライターは火災の危険がある為、本人の納得の上、職員が管理をしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全職員で共有認識を持ち、日々対応に努めています。 日常生活の中で事故が起きてしまった時は、ヒヤリハット・事故報告書を作成し、速やかにカンファレンスを開き対応と対策を話し合います・・・ 家族への説明・報告を行なっています。		職員の希望などを含めた勉強会を行なっています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応、吸引・・・など実践を交えた勉強会を行なっています。 消防署での救命救急の講習を受けています。(定員がある為順番で受講する)	○	全職員のスキルアップをはかりたいです。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、避難訓練を実施しています。 地域の方の協力については、呼びかけています。 定期的に消火器や火災報知器の点検を行なっています。	○	地域の方との関わりの重要性・必要性を説明して協力を得て行こうと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	活動や外出によってリスクが高くなることも考えられるが外出先での表情や堀マラソンでの充実した表情を家族に見てもらい抑制されない暮らしの大切さを説明し理解を得られるよう努めています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、定時のバイタルチェックを行ない記録しています。 いつもと違う様子の変化が見られた時は、医師・看護師に相談して受診したり、往診を頼みます。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の処方箋ファイル等があり、職員が薬の内容を把握できるようになっています。 薬は本人に手渡し、服用できているか確認しています。 臨薬(風邪薬など)を処方された時は、状態を観察し記録します。 医師との連携を常に図れる様にしています。 服用しづらい方へは、ゼリー液を使い飲みやすくしています		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れています。 散歩など適度な運動を心掛けて行なっています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きは利用者に声掛けをしたり、見守ったり、介助を行なっています。 就寝前は、入れ歯を洗浄剤に浸けます。(毎晩)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況をチェック表に記入し職員が情報を共有しています。 透析を受けている利用者は、水分チェック・管理しています。 極端に飲水の少ない方は、飲水量を記録し摂取の支援をします。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、インフルエンザ予防接種を受けている。(同意を頂く) ノロウイルスの対策としてペーパータオルを使用しています。 感染予防の為に手・指用のアルコール消毒・薬剤(消毒)を設置してあります。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の残りの確認を頻繁にしています。新鮮な食材を使用する為、毎日買い物に行き買いだめはしていません。 ふきんやまな板等は、毎日漂白して清潔を心掛けています。		猫の侵入を防ぐ工夫が必要です
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には庭で育てた花を生けたり、玄関先にはプランターで季節の花を育ててきれいにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎年、正月の門松は利用者と職員で力を合わせて作り飾っています。 リラックス出来る音楽や好みの音楽の希望を聞き、CDやテープをいつでも聞ける様支援しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVまわりに、ソファーやテーブルを置きみなさんと楽しく、くつろげるスペースを作っています。 喫煙希望者には、喫煙場所を用意してありますのでゆっくりと、くつろいで頂けます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真(家族集合・夫・趣味)や使われていた道具などを居室に置き、少しでも安心して過ごせる様にしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇は、常に使用していますが小さい為、窓の開閉によって、換気を心掛けています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内の物干しの高さは、利用者の使いやすい高さになっています。ホームの内外の各箇所の手すりを設置して歩行に不安のある方でも安心して自力で歩ける様に工夫してあります。歩けるとい気持ちを持ち続けて頂くよう支援しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の作りが同じな為、各居室の入り口に名札(表札)をかけて分かりやすくしています。 トイレ・風呂場の場所が分かりやすい様に表示してあります。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇を作り、花や野菜作りを楽しめる様に環境を整えてあります。玄関前に、ベンチとテーブルを置いて利用者が外気浴をしたり、日向ぼっこが出来るよう工夫しています。お茶を頂く事もあります。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

住み慣れた地域の中で、ご利用者が送ってきた当たり前の普通の生活ができるように支援している。それは、認知症が進んで、日常生活に大きな支障が出るようになっても同様であり、たとえ、最終的に寝たきりになっても、ぎりぎりまでこのような生活を継続することを目標としている。そのために、ご利用者一人ひとりのアセスメントをセンター方式を用いて、丹念に取り、ご利用者の喜びや悲しみ、誇り、苦しみを深く理解するように勤めている。ノーマライゼーションの考え方を強く意識して、認知症の人がグループホームで暮らしながらも、自分の住みなれた地域で、家族や友人との関係を保ちながら最期まで自分らしく生活できるように支援する。